

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	神戸大学
整理番号	A-①-5
事 業 名	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A-	これまでの取組を一部改善することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本プログラムは、高麗大学校及び復旦大学と協力して、東アジアの言語及び社会に対する理解や社会科学諸分野における学術的専門性について、リスクという観点から問題を分析し政策策定を主導するスキルを学生が身に付けた上で国際機関や NGO で活躍できるようなグローバル人材を育成することを目的としている。</p> <p>学生交流については、ダブル・ディグリープログラムや単位取得を伴う交換留学が順調に実施され、特に短期の派遣については目標を上回る実績を挙げている。また、ダブル・ディグリープログラムのほか、単位認定制度等の整備が進んでおり、3大学の教職員が国際シンポジウムで協議を行うなど、教育体制の充実に努めている点も評価できる。さらに、3大学合同国際シンポジウムにおいて学生が研究発表を行っており、学生の研究意欲の向上や発表技術の向上に努めていることが認められ、プログラム参加学生のみならず、各大学の学生や留学生にも研究発表の対象を広げ、大学の国際化に貢献していると言える。このほか、国際連携推進機構の教員1名がプログラム支援業務担当として配置されたほか、留学生宿舍の優先的な配分など、プログラム実施における全学的な支援が行われている。</p> <p>一方で、単位取得を伴う3か月以上の派遣・受入数に関しては目標に達していないことから、トライアングル留学と博士後期課程学生の留学については制度を整備した上で、交流を確実に実施していくことを期待する。また、長期留学への誘導としての短期プログラムの充実についてはある程度の効果を挙げているものの、引き続き長期留学への工夫が求められる。さらに、リスク・マネジメントについても、リスクごとに必要とされるスキルとプログラムの関係性を整理することが必要である。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>